

## さいたま看護学部

### 2021年度 教育評価アンケート結果

1期生2年生を対象とした調査（紙媒体）の回収率は94.3%（N=82）でした。

<身についた力>

2年生は、本学の8つのディプロマ・ポリシー（以下、DPとする）（卒業認定・学位授与の方針）うち6つのDPにおいて、そのDPを構成する項目の半数以上において能力が身についた（「強く思う」「思う」の合計が80%以上）と回答していました。その6つのDPと具体的な項目は以下のとおりです。

#### 「関係を築く力(DP1)」

他の人たちと相互に支え合い、成長し合う関係を築くことができる(91%)

異なる文化、価値観を持つ人々を、かけがえのない人間として尊重する態度を持つことができる（86%）

様々な人との間に支援に向けた関係を深めることができる(83%)

一人ひとりの人間を総合的に理解することができる(80%)

#### 「擁護する力(DP2)」

一人ひとりの人間の意思と独自性を尊重し守ることができる（84%）

人間の尊厳と権利を倫理的な視点から擁護する上での課題に気づくことができる(83%)

#### 「実践する力(DP3)」

自ら行った実践を振り返り、評価することができる（88%）

災害等の危機的な状況下での人々の健康問題や支援活動に関心を持つことができる(86%)

看護を受ける人の安全を守るための配慮ができる(86%)

#### 「成長する力(DP6)」

専門職を目指す者同士で共に教え学びあい、成長し合う姿勢を持つことができる(90%)

専門職として成長し続けるための自己の課題を見出すことができる(83%)

国内外の社会変化に関心を持ち、看護専門職として学び続ける態度を持つことができる(83%)

#### 「コミュニティに貢献する力(DP7)」

人々の生活の場であるコミュニティに関心を向けることができる(89%)

看護の専門性を活かしたコミュニティへの貢献に関心と意欲を持つことができる(88%)

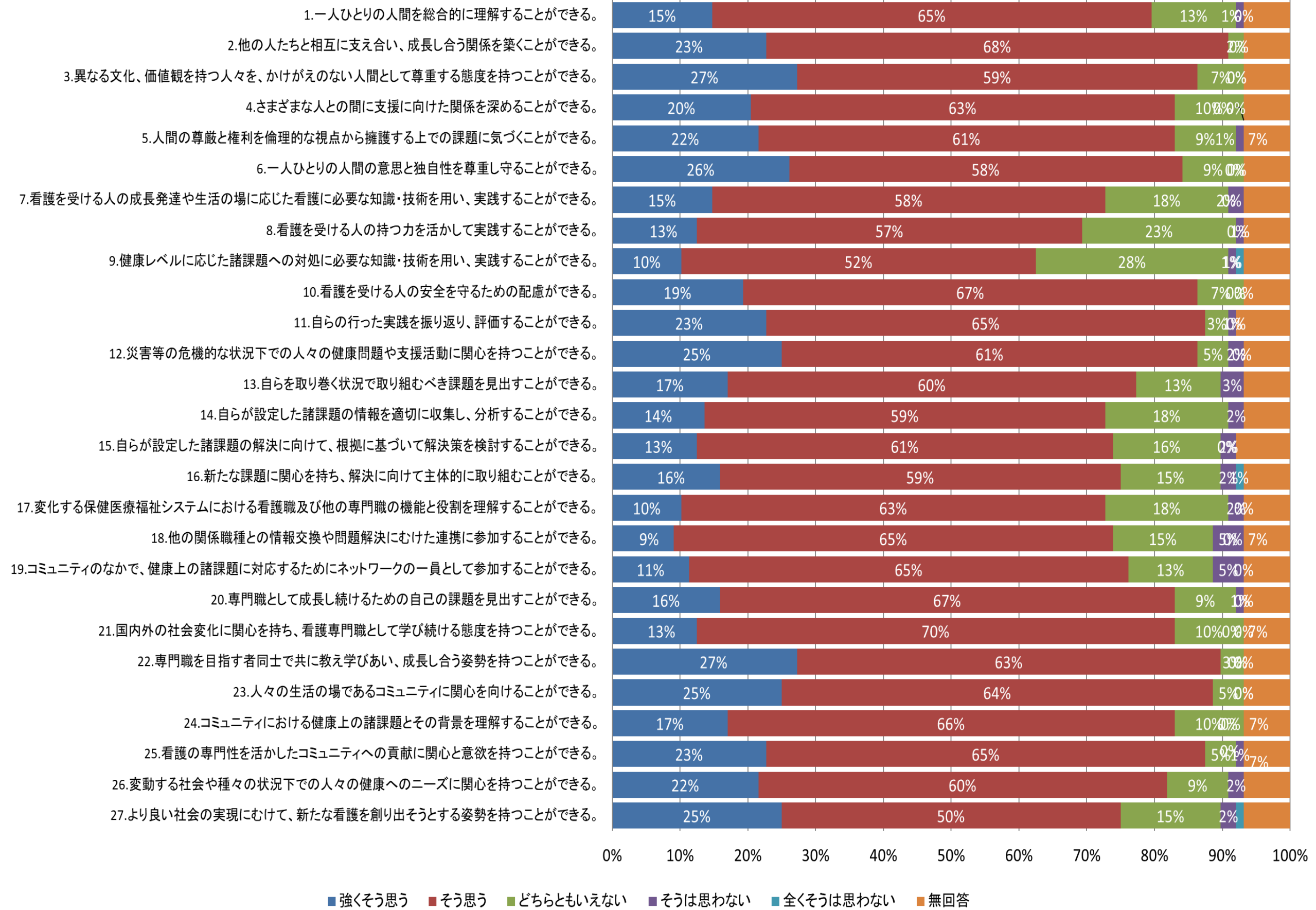
コミュニティにおける健康上の諸課題とその背景を理解することができる(83%)

#### 「変化を生み出す力」(DP8)

変動する社会や種々の状況下での人々の健康へのニーズに関心をもつことができる(82%)

一方、「探求する力(DP4)」と「連携する力(DP5)」については、上記の割合が比較的低く今後の課題と捉えていました。

図1 現時点であなたが以下の項目の能力を身につけているか（1期生2年生）



## さいたま看護学部

### 2021年度 教育評価アンケート結果

本学の1期生2年生のカリキュラムに対する受け止めについて  
 本学のカリキュラムに対する受け止めは、以下の通りでした。

学習段階に応じたレベル別の看護学実習を展開するようなカリキュラムであり、医療の高度化や看護ニーズの多様化、急性期化する医療機関での看護実践、エビデンスに基づいた看護実践ができる能力を育成するカリキュラムであると評価されました。

加えて、一人ひとりの人間がもつ固有の価値を認めて関係を築く能力と人間の尊厳と権利を擁護する能力を育成するようなカリキュラムであると評価されました。一方で、災害救援・救護や国際開発協力等における実践能力の育成や高等学校での学習とのつながりについては、低い評価でした。

<本学のカリキュラムについて評価の高かった項目> (「強くそう思う」「そう思う」の合計が85%以上の項目)

学習段階に応じたレベル別の看護学実習を展開するようなカリキュラムである(89%)

さまざまな健康レベルや場に応じた課題に対応できる実践能力を育成するようなカリキュラムである(88%)

医療の高度化や看護ニーズの多様化等に対応する専門的能力を育成するようなカリキュラムである(87%)

エビデンスに基づいた看護を展開できる力を育成するようなカリキュラムである(87%)

一人ひとりの人間がもつ固有の価値を認めて関係を築く能力と人間の尊厳と権利を擁護する能力を育成するようなカリキュラムである(87%)

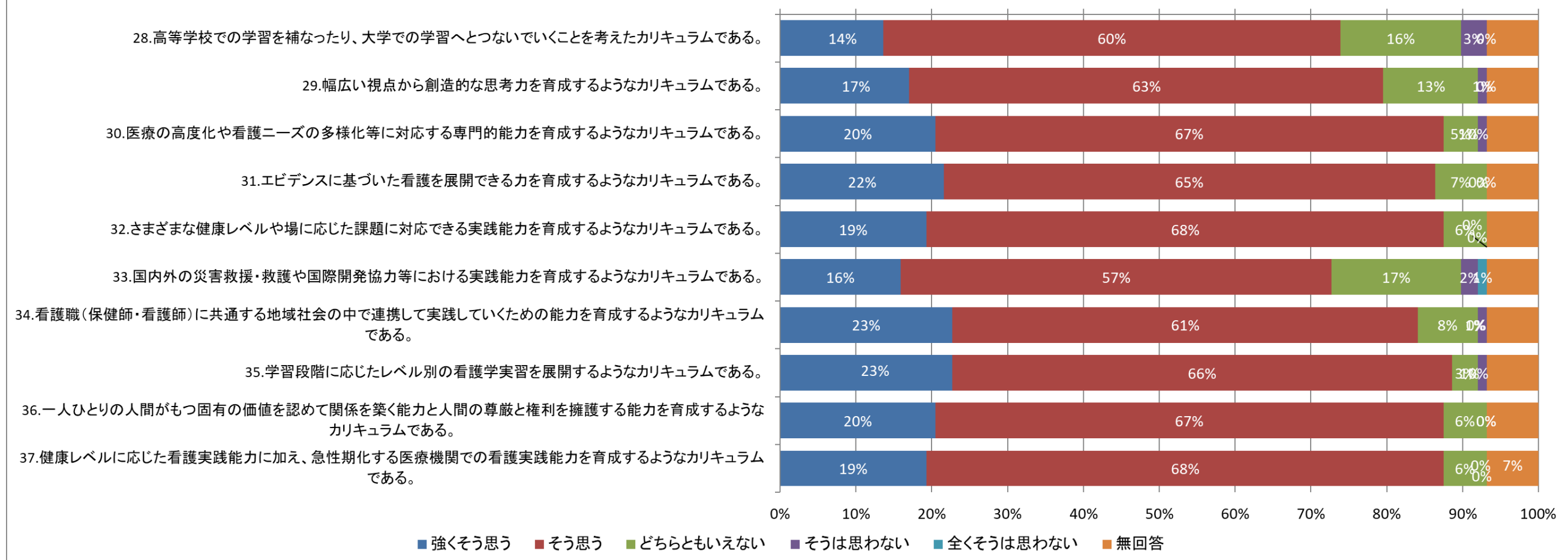
健康レベルに応じた看護実践能力に加え、急性期化する医療機関での看護実践能力を育成するようなカリキュラムである(87%)

<本学のカリキュラムについて比較的评价が低かった項目> (「強くそう思う」「そう思う」の合計が75%以下の項目)

国内外の災害救援・救護や国際開発協力等における実践能力を育成するようなカリキュラムである(73%)

高等学校での学習を補ったり、大学での学習へとつないでいくことを考えたカリキュラムである(74%)

図2 本学のカリキュラムに対するあなたの考え (1期生2年生)



## さいたま看護学部

### 2021年度 教育評価アンケート結果

1期生（2年生）の学習環境に対する受け止めは、以下の通りでした。

教員の専門性や学生との関わり、実習室の教育資材の充実等については肯定的に評価していました。

一方、図書館蔵書の種類や冊数、開館時間、実習室の使用時間等については、肯定的に評価している割合が60～70%に留まっていました。

本学に入学して良かったと79%の学生が肯定的に評価している一方で、大学生活全体に満足しているのは73%、自分の成長を実感しているのは68%で、  
 昨年の74%より若干低下しており、今後の課題と言えます。

<本学の学習環境について評価が高かった項目>（「強くそう思う」「そう思う」の合計が80%以上の項目）

学問分野の専門家として優れた教員が多い(90%)

学生一人一人を尊重してくれる教員が多い(87%)

実習室の教育資材は充実している(87%)

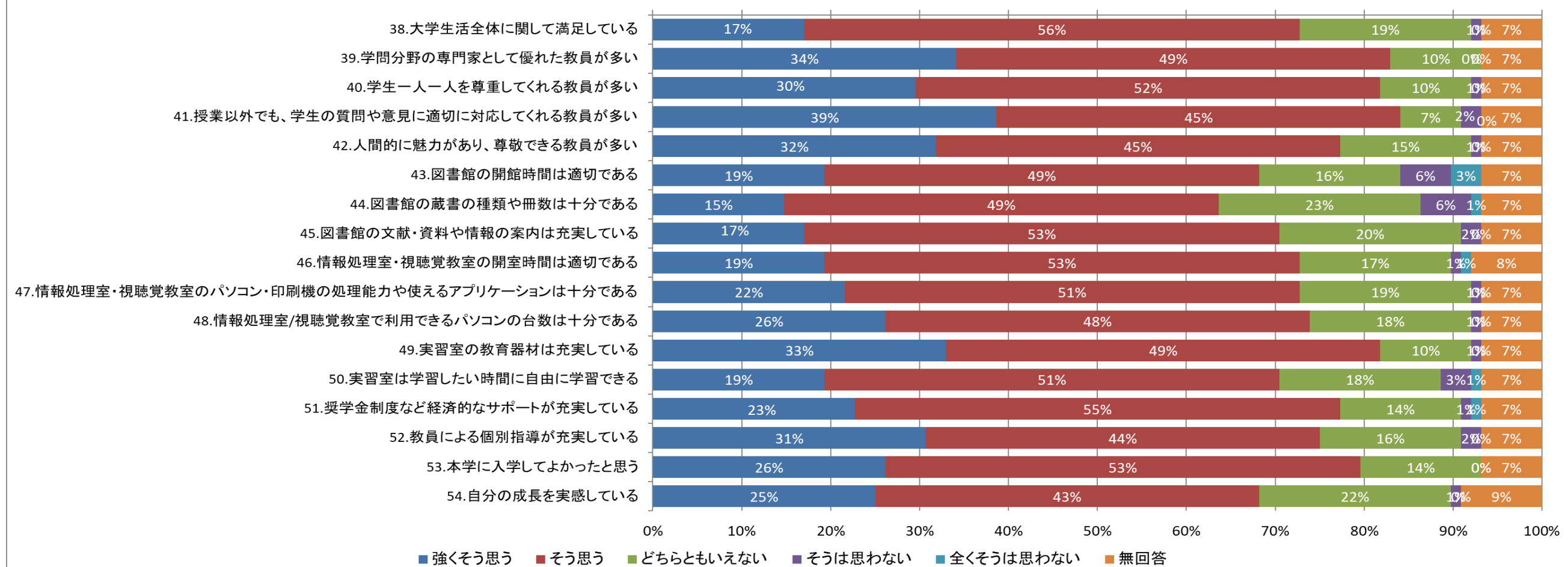
人間的に魅力があり、尊敬できる教員が多い(85%)

<本学の学習環境について評価が比較的低かった項目>（「強くそう思う」「そう思う」の合計が70%以下の項目）

図書館の蔵書の種類や冊数は十分である(64%)

図書館の開館時間は適切である(68%)

図3 学生生活における以下の内容に関する満足度(1期生2年生)





# さいたま看護学部

## 2021年度 教育評価アンケート結果

2期生1年生を対象とした調査（紙媒体）の回収率は95.5%（N=84）でした。

<身についた力>

1年生は、本学の8つのディプロマ・ポリシー（以下、DPとする）（卒業認定・学位授与の方針）うち5つのDPにおいて、そのDPを構成する項目の半数以上において能力が身についた（「強くそう思う」「そう思う」の合計が80%以上）と回答していました。その5つのDPと具体的な項目は以下のとおりです。

「関係を築く力(DP1)」

異なる文化、価値観を持つ人々を、かけがえのない人間として尊重する態度を持つことができる（87%）

他の人たちと相互に支え合い、成長し合う関係を築くことができる(83%)

「擁護する力」(DP2)

一人ひとりの人間の意思と独自性を尊重し守ることができる（88%）

「実践する力(DP3)」

自ら行った実践を振り返り、評価することができる（85%）

災害等の危機的な状況下での人々の健康問題や支援活動に関心を持つことができる(83%)

看護を受ける人の安全を守るための配慮ができる(81%)

「コミュニティに貢献する力(DP7)」

人々の生活の場であるコミュニティに関心を向けることができる(84%)

看護の専門性を活かしたコミュニティへの貢献に関心と意欲を持つことができる(82%)

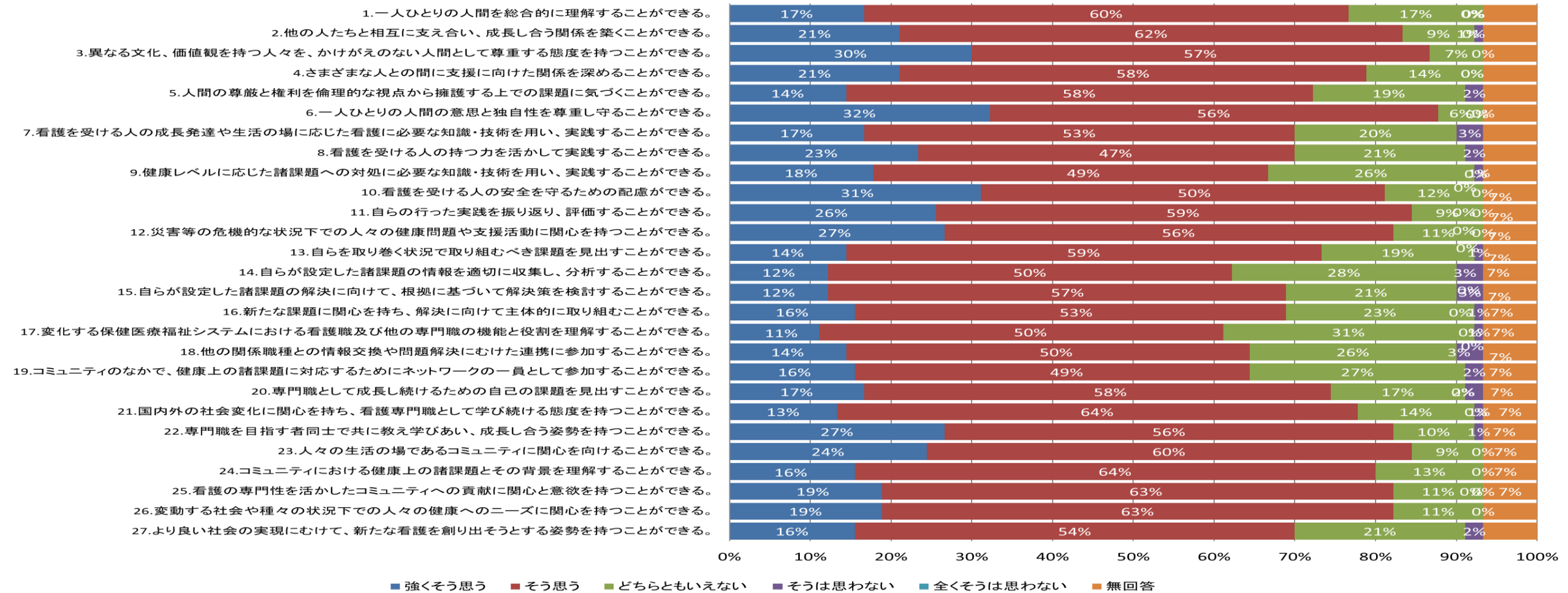
コミュニティにおける健康上の諸課題とその背景を理解することができる(80%)

「変化を生み出す力」(DP8)

変動する社会や種々の状況下での人々の健康へのニーズに関心をもつことができる(82%)

一方、「探求する力(DP4)」と「連携する力(DP5)」については、上記の割合が70%を下回っており今後の課題と捉えていました。

図1 現時点であなたが以下の項目の能力を身につけているか（2期生1年生）



## さいたま看護学部

### 2021年度 教育評価アンケート結果

本学の2期生1年生のカリキュラムに対する受け止めについて  
 本学のカリキュラムに対する受け止めは、以下の通りでした。

学習段階に応じたレベル別の看護学実習を展開するようなカリキュラムであり、さまざまな健康レベルや場に応じた課題に対応できる実践能力や看護職に共通する地域社会の中で連携して実践する能力を育成するようなカリキュラムであると評価されました。

一方で、高等学校での学習とのつながりや災害救援・救護や国際開発協力等における実践能力の育成が比較的低い評価でした。

<本学のカリキュラムについて評価の高かった項目> (「強くそう思う」「そう思う」の合計が85%以上の項目)

学習段階に応じたレベル別の看護学実習を展開するようなカリキュラムである(88%)

さまざまな健康レベルや場に応じた課題に対応できる実践能力を育成するようなカリキュラムである(88%)

看護職(保健師・看護師)に共通する地域社会の中で連携して実践していくための能力を育成するようなカリキュラムである(87%)

医療の高度化や看護ニーズの多様化等に対応する専門的能力を育成するようなカリキュラムである(86%)

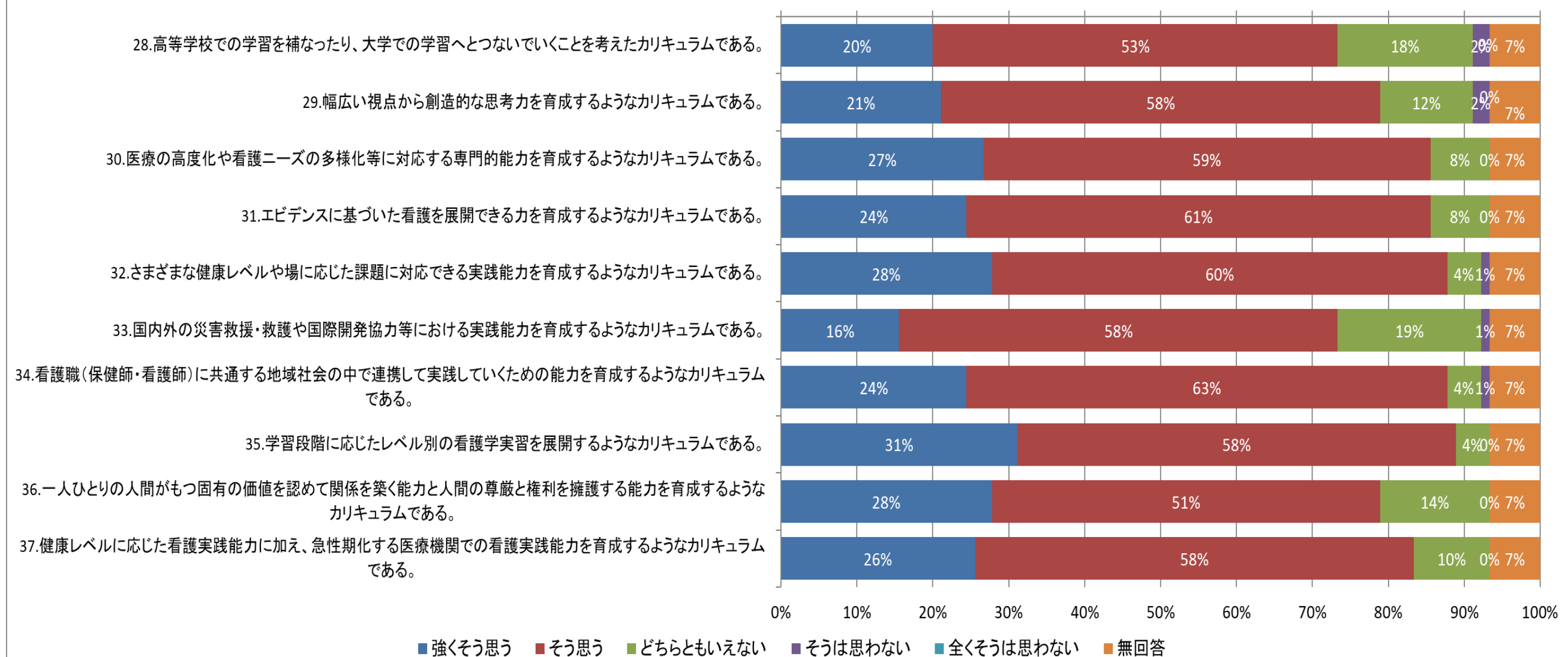
エビデンスに基づいた看護を展開できる力を育成するようなカリキュラムである(85%)

<本学のカリキュラムについて比較的低かった項目> (「強くそう思う」「そう思う」の合計が75%以下の項目)

高等学校での学習を補ったり、大学での学習へとつないでいくことを考えたカリキュラムである(73%)

国内外の災害救援・救護や国際開発協力等における実践能力を育成するようなカリキュラムである(74%)

図2 本学のカリキュラムに対するあなたの考え(2期生1年生)



## さいたま看護学部

### 2021年度 教育評価アンケート結果

2期生（1年生）の学習環境に対する受け止めは、以下の通りでした。

教員の専門性や人間性、学生との関わり等については肯定的に評価していました。また実習室の教育資材は充実していると評価している一方で、

図書館蔵書の種類や冊数、開館時間、実習室の使用時間等については、肯定的に評価している割合が60～70%に留まっていました。

さらに本学に入学して良かったと83%の学生が肯定的に評価している一方で、大学生活全体に満足しているのは75%と若干低下しており今後の課題と言えます。

<本学の学習環境について評価が高かった項目>（「強くそう思う」「そう思う」の合計が85%以上の項目）

学問分野の専門家として優れた教員が多い(90%)

学生一人一人を尊重してくれる教員が多い(87%)

実習室の教育資材は充実している(87%)

人間的に魅力があり、尊敬できる教員が多い(85%)

<本学の学習環境について比較的評価が低かった項目>（「強くそう思う」「そう思う」の合計が70%以下の項目）

図書館の蔵書の種類や冊数は十分である(64%)

実習室は学習したい時間に自由に学習できる(68%)

図3 学生生活における以下の内容に関する満足度(2期生1年生)

